

BASARA ～バサラ～

田村 由美

場所は日本。発達した文明がすべて滅びた後の日本を王様が支配しています。そこは江戸時代に現代のテイストを少し加えた感じの世界のように思いました。主人公は更紗という15歳の少女。彼女は山陰地方の砂漠に囲まれた小さな村で育ちます。彼女には双子の兄タタラがあり、この兄は国王を倒す「運命の子」と予言されて生まれました。タタラは村にある宝刀白虎の刀の継承者でもあり、他に3つある宝刀がそろったとき国王が倒れるという伝説のもと話は進みます。ある日、山陰地方を治める国王の末子赤の王・朱理によって兄タタラを殺され村が崩壊します。更紗は殺された兄の代わりにタタラとして王を倒すことを決意しましたが、混乱を避けるため常に男性として振る舞わなければなりませんでした。最初は父や兄の敵討ちのためだけに九州、関東、東北に散らばる宝刀を探す旅に出ますが、次第に「人が殺されても文句を言うことも出来ない国はおかしい」と国を変えするために彼女は動き出します。そして更紗はお互いの素性を知らず仇である赤の王・朱理と出会い、恋に落ちてしまいます。私たちの日常でも仕事が上手く進み始めた時、彼からプロポーズされてどちらを選ぶか迷う女性も多いと思いますが、更紗は愛と憎しみに挟まれながらも最終的に革命を成功させ朱理とも一緒に生きる道の両方とも手に入れるのです。頭を休めるために読んだハズなのに、気合いを入れ直すことになってしまいました。

野原



小学館文庫

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞